

第I章 特別調査の目的と概要

第1節. 特別調査の目的

特別調査は、保護地域におけるカモシカ個体群の安定的な維持を目的とした保護管理を実施するために通常調査と共に必要な基礎調査のひとつである。本調査では、カモシカの分布や生息密度、個体群動向などの生息状況や、植生、土地利用状況などの生息環境について総合的な資料収集を行い、調査地域におけるカモシカ保護管理施策の検討材料をとりまとめる事を目的としている。

これまでの情報のとりまとめの概要を第1回特別調査から記すと第1回特別調査（1986～1987年度、以下、第1回調査と記す）では、広域調査地域を設けるとともに、保護地域の地形や植生、特に餌資源となる林床植生に重点をおいて調査を実施した。

第2回特別調査（1992～1993年度、以下、第2回調査と記す）では、生息密度調査地点を約2倍に増やすなど、保護地域内の生息状況を把握することに重点をおくとともに、第1回特別調査との比較を行った。また、第1回と第2回の特別調査の間に行われた4年間の通常調査についても資料のとりまとめを行った。

第3回特別調査（2000～2001年度、以下、第3回調査と記す）では、第2回特別調査に引き続きカモシカの生息状況や環境の現状について資料収集を行い、第1回、第2回特別調査からの変化について検討を行った。また、生息状況調査においてカモシカとニホンジカ *Cervus nippon*（以後シカと略す）との関係について資料の蓄積を行った。更に、1994～1999年度までの6年間に行われた通常調査の資料整理と分析を行った。また、1992～2001年度の滅失届の整理を行った。

第4回特別調査（2008～2009年度、以下、第4回調査と記す）では第3回特別調査に引き続きカモシカの生息状況や環境の現状について資料収集を行い、第1回、第2回、第3回特別調査からの変化について検討を行った。また、生息状況調査において第3回特別調査から行っているカモシカとシカとの関係について資料の蓄積を行った。更に、2003～2007年度までの5年間に行われた通常調査の資料整理と分析を行った。また、2001～2007年度の滅失届の整理を行った。

第5回特別調査（2016～2017年度、以下、第5回調査と記す）では第4回特別調査に引き続きカモシカの生息状況や環境の現状について資料収集を行い、第1回から第4回特別調査と2008～2015年度までの8年間に行われた特別調査の比較を行い変化について検討を行った。また、2010年度～2015年度までの6年間に行われた通常調査と、2008～2015年度までの8年間に行われた滅失届の整理を行った。更に、保護地域内の生息環境調査を行い、シカによる森林への影響を考察した。生息状況調査において第3回特別調査から行っているカモシカとシカとの関係について資料の蓄積を行い、これまでの分布変遷を解析した。

第2節. 調査項目と調査内容

特別調査および通常調査の調査項目と調査内容については、文化庁文化財保護部記念物課（1994）が作成した「カモシカ保護管理マニュアル」にそのガイドラインが示されている。その主要項目は以下の通りである。なお、第5回調査は、このマニュアルに準じて行った。

I. 特別調査

1. 生息状況調査

1-1) 分布調査

1-2) 生息密度調査

2. 生息環境調査

2-1) 森林概況調査

2-2) 土地利用その他に関する調査

2-3) 食害状況調査

3. 個体群動向に関する資料の蓄積

3-1) 死亡個体に関する資料の収集と分析

II. 通常調査

1. 生息概況調査

2. 生息環境概況調査

3. 食害概況調査

このガイドラインに基づいた調査項目と主なとりまとめ内容を図 I-1 に示した。本特別調査の大まかな内容は以下の通りである。

生息状況調査では、調査地域におけるカモシカおよびシカの分布と生息密度の現況を把握し、過去の調査結果との比較を行い、生息数の推定を行った。

生息環境調査では、当保護地域におけるカモシカ個体群の生息状況に影響する森林概況、土地利用状況、気象条件と地形的特徴、植生について資料を収集し、現況を把握した。また、カモシカとシカによる林業被害についてまとめた。

個体群の動向に関する資料の蓄積では、2008～2015年度に提出されたカモシカの滅失届の整理を行った。

通常調査に関しては、2010～2015年度に実施された調査結果について整理した。

文化庁（2015）と自然環境研究センター（2016）により新たに作成提案された下層植生調査方法案に従い生息環境調査の一環として下層植生調査を行い、森林の現況把握とシカによる下層植生への影響を検討した。また各自治体から得られた情報から食害の概況について整理した。

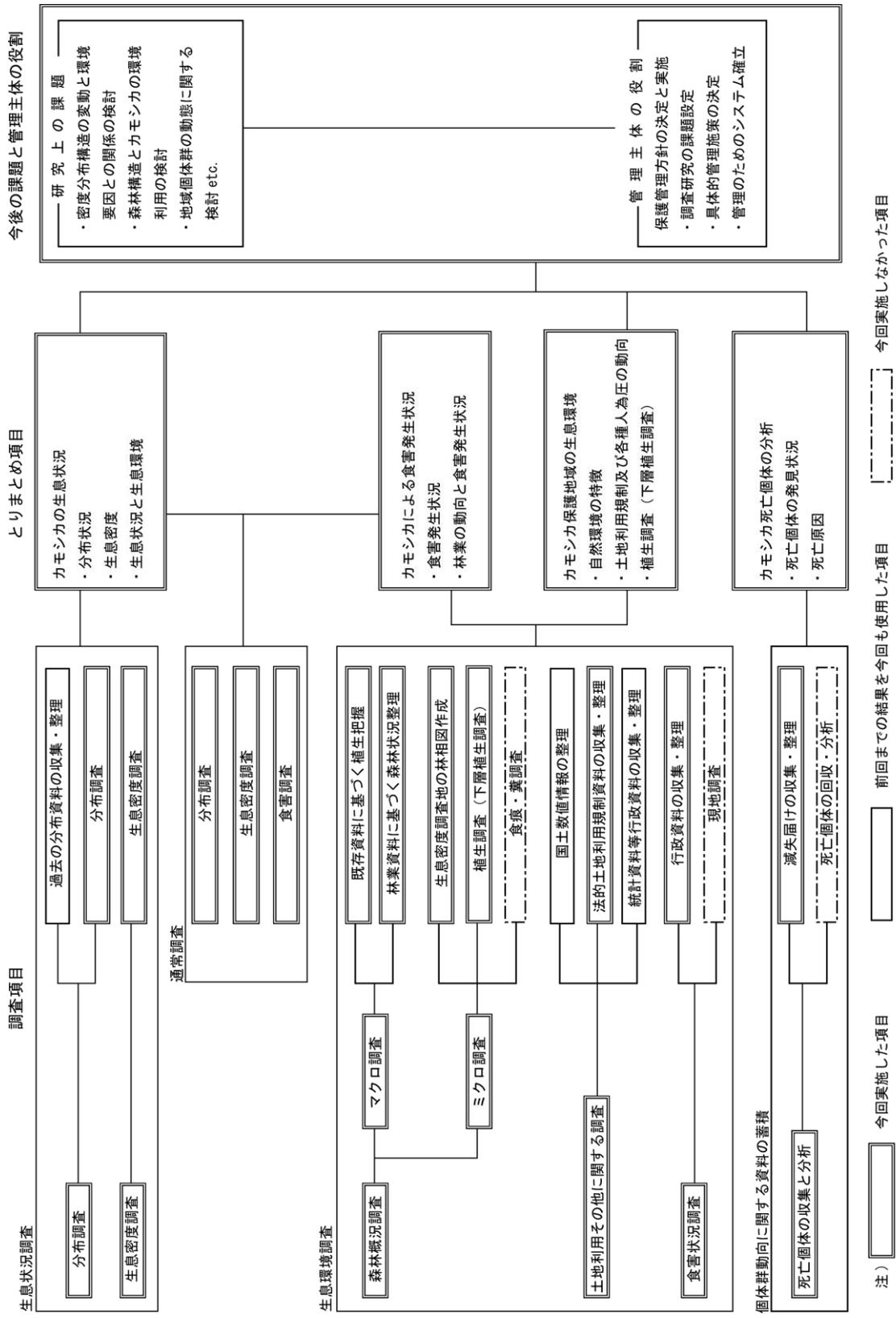


図 I-1. 第 5 回伊吹・比良山地カモシカ保護地域特別調査の内容に関するフローチャート

第 3 節. 調査対象地域の設定

本調査の対象地域は第 4 回特別調査と同じ地域とした。調査地域は保護地域および保護地域の周辺を対象に、アンケート調査は保護地域を広く包括する形で設定した。調査地域を図 I-2 に、調査地域の旧市町村を図 I-3 に示す。

1. アンケート調査地域

カモシカとシカの分布状況を把握するため、アンケート調査を実施した。対象市町は、第 4 回特別調査と同一の市町とした。

2. 調査地域

調査地域（図 I-2、図 I-3）は、3 次メッシュ（標準地域メッシュシステム（1973 年行政管理庁告示 143 号「統計に用いる標準地域メッシュおよび標準地域メッシュコード」）による第 3 次地域区画）単位の集計を行うため、保護地域の形状に沿って、外側に 1～2km 幅の地域を含むように 1km メッシュ線によって区切った。調査地域に含まれる 3 次メッシュ数は 1,791 メッシュである。なお、調査地域の 3 次メッシュの中で、一部および全てに保護地域を含む 1,152 個を保護地域の 3 次メッシュとした。なお、第 4 回特別調査まではメッシュ座標の基準を日本測地系としていたが、今回は、統一性、汎用性の観点から世界的な主流となっている世界測地系へと変更した。

調査地域は福井県敦賀市と滋賀県長浜市を結ぶ国道 8 号線によって山塊が大きく分けられ、この線でカモシカの地域個体群も分断されていることから、東部地域と西部地域に区分した。また、場合によっては、その周辺地域も含め東部、西部と表現した箇所もある。なお、林班単位の集計を行う場合は、保護地域に林班の一部および全てが含まれる地域とした。

